発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 澁田紀生
年間600円　送料共

迫った大変災7年忌

〝大集会〟準備すすむ

交流・展覧会など日程きまる

期末手当闘争を中心に、「沖縄即時返還」「安保条約破棄」「佐藤訪米抗議」などの重大な目標をもって闘われる秋季闘争の真っ只中のきたる十一月九日に、大牟田で開かれる〝三池大変災七年忌、労仂災害・公害・転業病から生命を守る大集会〟(総評・炭労・三池労組の共同主催)は、約五千人を結集するかねてからの計画にもとづいて具体的準備がすすんでいます。

この大集会には全国各単産の代表者や、福岡・熊本・佐賀・長崎など九州各県の県評が大量の参加者を送ることになっています。

何といってもこんどの大集会の特徴は、〝全国各地に誕生し活動している〝三池CO患者守る会〟から代表者を招くことと、たとえばCO中毒患者に見るような労仂災害の被災者、水俣病・新潟水俣病・富山イタイイタイ病・四日市ぜんそく・カネミ油症などに泣く不幸な公害被害患者、それにけい肺・白ろう病・ガス患毒・キーパンチャー病などの転業病に悩む患者の人々を迎えることです。

しかも二日から三日間にわたって行なわれるその交流は、必ずやこれからの反合理化闘争、命を守る闘いを強める上で大きく役立つに相違なく、いまから期待が集まっています。

さて、大集会を中心とする各種の行事の具体的な計画は、次の通りです。

大集会
日時　十一月九日午前十時開催
場所　市内笹林公園で
参加　五千人。全員参加。
※終了後「黒いデモ」。三井鉱山三池鉱業所に抗議。

追悼展覧会
日時　七日から九日まで。
場所　市内の労仂会館ホールそのほか。
種目　絵画、書道(以上は新日窒労組美術部との交流による作品展)、生花、盆栽など。

〝三池の命を守る闘い〟写真展
日時　七日から九日まで。
場所　労仂会館講習室。
※写真と共に、昭和三十八年十一月九日のあの三川鉱大爆発をしのばせる、特性者の遺品をはじめ、闘争を記念する品々を紹介。

労災・公害・転業病交流
日程　八日午後一時～同四時の間、各地各転場からの実態報告にもとづき交流。(市内延命会館ホールで)
九日午後二時～同四時の間、前日の交流を基礎に討論を行ない集約をはかる。(市内市民会館ホールで)
参加　全国の各地各転場からの参加者に、三池労組からCO中毒患者やけい肺患者のほか、中央委員・地域分会長・主婦会役員・政治局員・青婦部員・CO患者家族会会員・遺族などが参加する。

CO患者守る会代表者会議
日程　八日午後一時～同四時の間、各代表者による活動経験の報告と交流。(三池労組本部で)
九日は市民会館ホールで行なわれる労災・公害・転業病関係者の交流集会に参加する。
十日午前十時～正午の間総括集会。(延命会館ホールで)
参加　守る会代表中心に、三池主婦会代表、CO中毒患者家族の会々員・遺族など参加。

三池出身オルグ交流
日程　七日午後一時～同五時の間意志統一。(延命会館ホール)夜は出身指導部での地域交流。
八日午後二時～同六時の間、出身指導部での交流
十日午前十時～正午の間総括集会。(延命会館ホール)

民泊
全国各地各転場から集まった人々は、計画にもとづいてそれぞれ三池労組の組合員の家に宿泊し、夜は地域で積極的に組合員・主婦と交流する。

×

本紙購読者の皆さん、全国CO患者守る会員の皆さん、以上の通りですから、どしどしこんどの大集会にご参加ください。そして積極的に交流し、経験を学び、何よりも連帯を強め、大いに反合理化と命を守る闘いをもり上げながら八〇年闘争に向かって前進していきましょう!

職場新聞活動を活発にしましょう!

転場・地域の皆さん。秋闘を契機に重要な闘いに突入します。下から統一と団結を固めるために、転場新聞・地域新聞活動を活発にしてゆきましょう。

いよいよ文集発行へ

多くの人々に読んでもらおう

すでに伝えられたように、こんどの三池大変災七周忌を記念して、三池労組は〝やがてくる日に〝という主題の「みいけ二十年の詩文集」の発行を計画したが、その計画も数人の文学サークル活動家たちの手によってすでに編集を終り、印刷にかかっている。

ページ数は約百三十ページ、見れば詩を中心に短歌・俳句・川柳・小説・随筆にわたり、そのときそのときの闘いをはげまし、また芸術的にも優れた作品がきびしく選ばれている。

これまではとかく、「三池は闘いはあるが、文化的には不毛の地だ」と、ありがたくない評がたてまつられていたが、少くともこんどの作品集は、その評をはね返して「闘う三池にこそ文学的昂揚期を出発点に、三十五年の三池闘争、三十八年の大災を契機に爆発した怒り、そして〇〇中毒患者と遺族を守りながら闘ってきた命を守る闘いと、それぞれの時期での文学的開花が続くその足跡は、明らかに仂く者の、これからの文化創造活動のための一つの指標にさえなっている。

作品は、もちろん機関紙の〝みいけ〟に掲載されたものを中心に、そのほか三池の労仂者の文学的達成を示した優れた作品なら、たとえ外部の雑誌などに発表されたものもいくつか選び紹介した。さらには、よその人の作品でも、三池の闘いを力強くささえたものを加えることも忘れなかった。きたる一一・九大集会までには、間違いなく発行される。ひろく呼びかけて一人でも多くの人が読んでくれるようにしよう!

三池における文学的創造の歩みの跡を、典型的に示しているのは何といっても詩作品だったが、文化的にはまだ未熟さ、ありがたくない評りに目覚めた明けぼのとも称される二十七、八年の、はじめの文学的昂揚期を出発点に、三十五年の三池闘争、三十八年の大災を契機に爆発した怒り、そしてCO中毒患者と遺族を守りながら闘ってきた命を守る闘いと、それぞれの時期での文学的開花が続くその足跡は、明らかに仂く者の、これからの文化創造活動のための一つの指標にさえなっている。

作品は、もちろん機関紙の〝みいけ〟に掲載されたものを中心に、そのほか三池の労仂者の文学的達成を示した優れた作品なら、たとえ外部の雑誌などに発表されたものもいくつか選び紹介した。さらには、よその人の作品でも、三池の闘いを力強くささえたものを加えることも忘れなかった。きたる一一・九大集会までには、間違いなく発行される。ひろく呼びかけて一人でも多くの人が読んでくれるようにしよう!

総評に対応し秋闘へ

来組の山本炭労委員長「石炭政策は破綻した」

この十六日、秋季闘争を前に、炭労の山本委員長が来組した。

三池労組はその日特に転場分会長会議を招集、山本委員長との交流を行なった。

山本委員長はこの交流の中で、迫る秋闘に対する炭労としての姿勢について語ったが、分会長の中から切実に述べられたことは

「余りにもひどい低賃金のために、いよいよくらしがどうにもならなくなっている。炭労としては賃上げ、期末一時金などもっと思い切った要求をぶっつけて闘うべきだ。それでこそ、三池では第二組合員の期待にこたえることできる」「現在坑外の堅作業に復帰して仂いているCO患者の中には、くらしを思うが余りに疲労をおして仂きに出ては、中毒症が増悪する者さえ出ている。一人は死んだ。この事実を見すに、命を守る闘いはあり得ない。この際炭労としてもいっそう真剣に、せめて七級の認定を勝ちとるためにがんばってほしい」などだった。

これに対して山本委員長は、「期末一時金が重大だからこそ、これならばとれるとされる金額にしぼって要求したいが、三池のそんな切実な声はよくわかった。ぜひ大会で述べてほしい」「七級認定の問題が重要なことはよくわかるし、また法制定のとき政府自ら約束したところでもある。したがってがんばるが、正直にいって情勢はきびしい」など、こたえた。

七〇年春闘共闘早くも発足

七〇年春闘を闘う〝春闘共闘委員会〟が、八百十万人の労仂者を組織、去る十四日発足した。(東京で)

もちろん総評と中立労連とが組んでの共闘であるが、安保問題と密接に関連した春闘だけに、共闘委員会も「もてる力を出しきって闘い抜く」覚悟を固めている。

主婦会、下山田遺族救援カンパ

三池主婦会はかねて、下山田犠牲者遺族救援カンパ活動をすすめていたが、このほど組織内で三万七千五十二円、街頭で一万六千三百七円が集まった。他に勝立の二商店からも五百円カンパが寄せられたが、近く下山田労組あてに贈ることにしている。

新石炭政策は早くも破綻

山本委員長はさらに、激動する国際・国内情勢に対応しつつ、秋―年末―春闘―安保破棄をめざしながら、こんどの秋闘を七十年闘争の第一段階としてとらえ、生活向上、反合理化、国民的諸課題の解決を柱として、統一ストライキをもって闘う総評の闘いに対応しつつ、炭労として期末手当闘争、沖縄返還、安保破棄の闘いをすすめる方針を明らかにした。

その中で同委員長は新石炭政策のその後の展開について――

「こんどの政策も、私企業の生産第一主義をあおり、依然として災害を激増させている。一方ビルド鉱のはずの北星炭鉱(北海道)までまきこみながら、閉山合理化はその攻撃をやめない。政府が新石炭政策の実施に当たって計画していた四十四年度三百九十万トンだった閉山計画が、六百万トンになり、早くも新石炭政策は破綻を示した」

と指摘、「この問題を討議するために、一日も早く体制委員会を開くように呼びかけている」といったが、この事実は炭鉱労仂者の前に大きな問題を投げかけたことを示している。

新運動方針を確立

大地評　三つの重点目標

十一日労仂会館で開催された大地評第十六回定期大会は、七〇年闘争をめざす新年度の運動方針を確立した。

こんど確立された同地評の方針は、「三池と安保を闘った六〇年安保の戦闘性を再確立する中で、七〇年安保が日本の労仂運動と今後のあらゆる大衆行動の屈折点となる重大な闘いであることをきびしく認識し、さらに三井独占資本を中心とする保守反動体制とするどく対決し、労仂者の生活、権利を確保し、人殺し合理化、低賃金政策の壁を打破するために大地評の機能を高め」ながら、①反合理化反弾圧 ②安保破棄・沖縄返還 ③産業別共闘と地域共闘の強化――の三つを重点に闘いをすすめるとしている。

そのため交流の強化、産業別・地域別・未組織にわたる組織の強化、労仂者教育・サークル活動などにわたる教宣活動の強化、労災や転業病の撲滅・低賃金打破・失業反対など反合理化闘争の強化、公害防止闘争や社会保障拡充・反戦平和、選挙対策の強化をめざすとしている。

とりわけ七〇年闘争をすすめる上で、大牟田の労仂者の闘いのもつ意義は大きい。